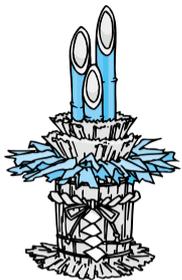


## 心臓病の過去・現在・未来

葉山ハートセンター・上野秀樹院長



### 治療の歴史は常識をくつがえすこととの連続

新春を迎え、弊会機関紙「健康かながわ」も550号を数えることとなりました。新春号では、心臓病を取り上げて「心臓病の過去・現在・未来」と題して、日本でも有数の心臓病治療専門病院として知られる葉山ハートセンターの上野秀樹院長にこれからの心臓病治療について、夢を語っていただきました。

新年あけましておめでとうございます。今回私は、初夢として心臓病治療の将来についての執筆を求められました。そこで本日は、代表的な心臓病である急性心筋梗塞の治療の歴史を振り返りながら、心臓病治療の将来についての夢をみたいと思います。

#### 心筋梗塞の原因説明は1980年代初頭

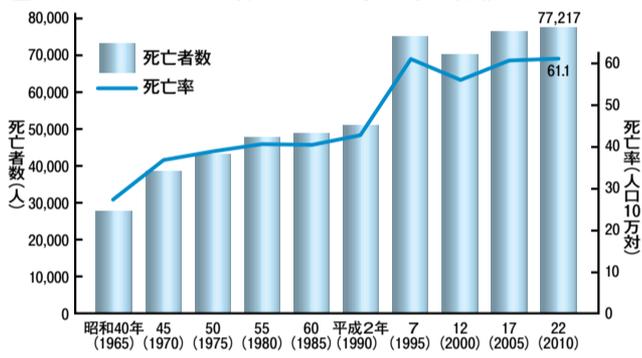
急性心筋梗塞は、突然死の原因となる、いわゆる心臓発作の代表です。その原因は、心臓を養っている冠動脈の壁のなかに生じた粥腫（じゅくしゅ）が急に破綻し、冠動脈内に

血栓が形成されて冠動脈が閉塞し、その結果その領域の心筋細胞が壊死に陥ることです。ところが、冠動脈内血栓が原因であることが皆の共通の認識となつたのは、1980年台初頭でありました（つい最近のことではありませんか）。

最初の急性心筋梗塞の治療は、治療と申しましてただ見守るだけでありまして、しかも患者を静かな環境に置くべきとの考えから、患者を看護師詰所からもつとも離れた静かな病室においていたのだ



虚血性心疾患の死亡者数・死亡率の年次推移



資料 厚生労働省「人口動態統計」

ゆつくり時間をかけて、心臓に対する負担を少しずつ増やしそれに耐えられることを確認しながら、日常生活への復帰を期していたのです。

#### 冠動脈内血栓が原因

1980年台初頭に、急性心筋梗塞の原因が冠動脈内血栓であることが認識されるようになってから、初めて早期再灌流（詰まっていた血管を再び流れるようにする）療法が登場しました。それには血栓を溶解する薬剤を全身あるいは冠動脈内投与する方法と、カテーテルを用いて閉塞部位を再疎通させる方法（カテーテル治療・最近では経皮的冠インターベンションという用語が用いられます）が提起されました。その結果、後者の方がより確実に再灌流が可能であることが明らかになり、1990年台には冠動脈内へのステント留置による早期再灌

あけましておめでとございます。私はお雑煮が大好きで、いつもこの時期はとても幸せに過ごしているのですが、昨年末、うちの8歳の猫の多飲多尿が気になり動物病院を受診させたところ、見事に糖尿病が発覚いたしました。まあその、その猫はなんとも貴族のある、たつぷりとした、食事に文句をつけずよく食べる。飼い主と寄り添って大人しく寝ているのが何よりも好き。穏やかな生活を好む……ええ、つまりは運動嫌いのおデブ猫です。責任はほぼ100パーセント飼い主にある訳ですね。まず糖尿病食を、1日2回きちんと計って食べさせること、運動させることという指導を受け、すぐにご自宅に戻ったわけです。

#### 今年の抱負

松村 奈緒美（松島ランドマーククリニック院長）

多頭飼いのため、食の細いや食べるのが遅いのもいて心配しましたが、2回食への移行は全員スムーズで、ほとんど問題は起こりませんでした。尿の回数も目に見えて減り、これならインシュリン治療をせずとも何とかなるかもとのことです。ところで採血の際、獣医さんが猫の前肢を握って「ああ、肢にもこんなに肉が……」と小声で嘆いていらつしやいました。猫は成人を迎える一歳の時の体重がベストらしいのですが、それに比べ1キロ以上、人間に換算すると10キロ以上重くなっていたのです。成人時からの体重オーバー、運動不足、無分別な食事。すべて自分にも当てはまることで、正月早々お雑煮を前にし、せめて今年は運動することしようと思つた私なのでした。

合には、2、3日で退院することも十分可能です。急性心筋梗塞の診断自体は、ほとんどの場合12誘導心電図で可能ですが、純粋な後壁梗塞の場合には心電図異常がまったく認識されない場合がありますので、患者さんに症状が持続していて疑わしい場合には、冠動脈造影でその場で見てしまうのがもっとも確実です。このように急性心筋梗塞の治療の歴史は、それまでの医学界の常識をくつがえすこととの連続でした。このことは他の疾病の分野にも共通することだと思えます。

急性心筋梗塞の治療の歴史は、急性心筋梗塞の歴史は、急性心筋梗塞の歴史は……

## 外来で早期発見できる画像診断装置の開発を

#### 急性心筋梗塞の7割は初めて痛みを感じた人

ちなみに何年間も胸の痛みや苦しさと闘ったあげくに最後に急性心筋梗塞が起きるのでなく、むしろ急性心筋梗塞の患者の7割は初めて感じた胸部症状が、前述の破綻寸前

の粥腫は、血管の狭窄度としては意外にひどくないことが多いたため、粥腫が破綻して血栓を形成するまで虚血による症状を来さないため、とされてきました。胸部の異常を感じ始めて2時間以内に前述したカテーテル治療が完了すれば、急性心筋梗塞の後遺障害はほぼ

ありません。したがって、初めて感じた胸部の異常に対して、適切に対応することが生死、あるいは後遺症の有無を分けることとなります。そのためには一般の方々への啓発活動が重要です。きわめて迅速に治療され、心筋壊死が最小限に食い止められた場

合には、2、3日で退院することも十分可能です。急性心筋梗塞の診断自体は、ほとんどの場合12誘導心電図で可能ですが、純粋な後壁梗塞の場合には心電図異常がまったく認識されない場合がありますので、患者さんに症状が持続していて疑わしい場合には、冠動脈造影でその場で見てしまうのがもっとも確実です。このように急性心筋梗塞の治療の歴史は、それまでの医学界の常識をくつがえすこととの連続でした。このことは他の疾病の分野にも共通することだと思えます。

急性心筋梗塞の治療の歴史は、急性心筋梗塞の歴史は、急性心筋梗塞の歴史は……

急性心筋梗塞の治療の歴史は、急性心筋梗塞の歴史は、急性心筋梗塞の歴史は……